

令和5年第5回庄原市議会定例会

一般質問通告者  
及び  
質問事項

12月13日・12月14日・12月15日

質問順位

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 横路政之  | 2. 宇江田豊彦  |
| 3. 國利知史  | 4. 福山権二   |
| 5. 前田智永  | 6. 坂本義明   |
| 7. 谷口隆明  | 8. 政野太    |
| 9. 吉川遂也  | 10. 五島誠   |
| 11. 赤木忠徳 | 12. 藤木百合子 |

庄原市議会

# 令和5年第5回庄原市議会定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	横路 政之	奨学金返還支援による若者の定着の推進について	1
		庄原市西城総合運動公園（道後山高原クロカンパーク）内のトイレ改修について	2
		鳥獣被害対策について	3
2	宇江田 豊彦	2024年度予算編成方針について	4
		教育条件整備において最も大事な教職員の実態について	5
3	國利 知史	JR芸備線再構築協議会での協議を含む今後の対応について	6
		先進過疎地対応型MaaSの現状と課題について	7
4	福山 権二	「庄原いちばんづくり」について	8
		子どもの権利条例について	9
		廃校小学校の施設活用について	10
		林業振興について	11
5	前田 智永	本市の次代につなぐ輝く農業について	12
6	坂本 義明	有害鳥獣対策について	14
7	谷口 隆明	市民の暮らしを守ることを最優先に	15
		地方ローカル線の存在意義を高く掲げて	17
		医療法人社団光仁会の撤退と新法人の設立について	19
8	政野 太	道の駅等の観光施設のあり方について	20
		スポーツによるまちづくりについて	21
9	吉川 遂也	鳥獣被害対策について	22
		水田活用直接支払交付金の厳格化に伴う本市農業への影響について	24
10	五島 誠	本市の働き方改革について	25
		少子化対策の推進について	
		いざなみカードの効果、展望について	26
11	赤木 忠徳	景気対策は、即効性のある施策をすべき	27
		芸備線再構築協議会に参加表明した庄原市の主張は	28
12	藤木 百合子	高齢者が住みやすい市営住宅の整備について	29
		介護保険料、利用料の負担軽減について	30

## 一般質問日程

- 12月13日（水） 横路政之・宇江田豊彦・國利知史・福山権二  
 12月14日（木） 前田智永・坂本義明・谷口隆明・政野太  
 12月15日（金） 吉川遂也・五島誠・赤木忠徳・藤木百合子

順位	1	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 奨学金返還支援による若者の定着の推進について	<p>「日本学生支援機構」によると、現在、大学生の2人に1人、年間128万人の学生が「奨学金」を利用するまでに制度が充実してきた。</p> <p>一方で、卒業後「奨学金の返還が苦しい、負担が重い」といった声がある。</p> <p>2019年度の返還延滞者数は32万7,000人で、延滞債権は約5,400億円に上り、延滞期間が長引く背景には、本人の収入減や延滞額の増加が指摘されている。</p> <p>こうした利用者の負担軽減に向け、返還を「肩代わり」する支援制度が2015年から実施されている。その制度は、「一定期間定住し、就職する」等の条件を満たせば、対象者の奨学金の返還を自治体が支援するものである。</p> <p>また、その支援には特別交付税措置もある。</p> <p>そこで、奨学金返還に苦しんでいる若者の負担を軽減すると共に、地方創生の観点から、若者の地方定着を促す「本制度」を本市でも導入すべきと考えるが見解を伺う。</p>		市長	

順位	1	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
2. 庄原市西城総合運動公園（道後山高原クロカンパーク）内のトイレ改修について	<p>4年ぶりに制限のない大会として8月19日に第24回ひろしまクロスカンントリー大会が、道後山高原クロカンパークで盛大に開催された。1,010人の参加者を含め、約4,000人の方々に市内外から来場していただき、ランナーに熱い声援を送っておられた。</p> <p>一方、多くの来場者がトイレを集中して使用されことで、便器周辺に使用後の水洗がオーバーフローしたり、トイレが旧式で利用し難いなどの課題が見られた。</p> <p>素晴らしい環境での体験を持ち帰ってもらい、道後山高原クロカンパークの良さをアピールしてもらうため、トイレの改修は必要と考えるが見解を伺う。</p>			教育長

順位	1	質問者	横路 政之
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 鳥獣被害対策 について	<p>(1) 11月に行った市民と語る会では、鳥獣被害対策について多くの意見が出された。根本的な対策が無い中、本市においては様々な補助で対応されている。</p> <p>市民の意見の中では、くくり罠への補助、猟銃を保管するガンロッカーへの補助といった要望もお聞きした。防除や頭数を少しでも減少するしか手立てが見つからない中、補助の対象項目の拡大をすべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) また、広島県が実施している、狩猟免許試験が農繁期の6月～9月に実施されることについて、農閑期に実施してほしいとの意見も伺った。</p> <p>広島県に最適な試験日時を要望すべきと考えるが見解を伺う。</p>		市長

順位	2	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 2024年度予算 編成方針につ いて	<p>市長は、10月26日付で「令和6年度予算編成方針について」明らかにされている。</p> <p>基本方針として、現下の情勢を捉え機動的対応をすること、また、最重要課題である人口減少の抑制、災害復旧の継続、抑制してきた普通建設事業の実施、本市の将来像を見据えた長期総合計画をはじめ諸計画の確実な実施を目指すとされている。</p> <p>しかし、本市の人口減少の進行は、より加速度的に様々な課題を引き起こし、市民意識の中では展望がなかなか見えないとの声を聞く。</p> <p>将来のまちづくりを進めるためには、どのようなまちを目指しているのか、市民としっかり共有したイメージを持つことが大切だと考える。</p> <p>10年後「どのようなまち」になっているのか、市長の思い描く本市の将来像とはどのようなものなのか、また、新年度予算編成においても、その将来像実現に向けたより市民にわかりやすい「メリハリ」のある内容を示すことが必要と思うが、市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	2	質問者	宇江田 豊彦
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 教育条件整備 において最も 大事な教職員の 実態について	<p>(1) 教職員が安心して児童・生徒に向き合える労働環境を整えることが喫緊の課題と考える。本市においても取り組まれている「学校における働き方改革取組方針」の推進状況と課題について伺う。</p> <p>(2) 教職員が仕事を家に持ち帰ることが増えていると思うが、その実態と対策をどのように考えられているのか伺う。</p> <p>(3) 教職員のメンタル不調による休職や長期の休暇などの問題が起こっていないか伺う。また、メンタルヘルスの取り組み状況についてもあわせて伺う。</p> <p>(4) 近年の教職員早期退職の実態と対策について伺う。</p>		教育長

順位	3	質問者	國利 知史
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. JR芸備線再構築協議会での協議を含む今後の対応について	<p>本年10月3日、JR西日本は全国で初めて国土交通省に対し、JR芸備線の備後庄原駅から備中神代駅における再構築協議会設置を要請した。</p> <p>それに伴い11月27日、国土交通省中国運輸局に対して広島県、岡山県、庄原市、新見市は、要請があれば再構築協議会に参加する旨の回答を行った。</p> <p>そのことを受け中国運輸局は年度内にも協議会を設置する方針であり、3年間を期限に今後の方向性を議論することになる。</p> <p>本市はJR芸備線が地域生活交通として無くてはならない交通手段であることや、まちづくりや観光を含めた地域活性化の観点から、何としても廃線は避けるべきという立場であると認識している。</p> <p>市としてJR芸備線の備後庄原駅から備中神代駅間の存続に向け、再構築協議会での議論と並行して、利用促進に向けた対策などが必要と考える。再構築協議会での協議も含めて市として今後どのような対策を行っていくのか伺う。</p>		市長



順位	3	質問者	國利 知史	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 先進過疎地対応型M a a Sの現状と課題について	<p>近年注目されているM a a Sだが、本市でも令和元年度に、庄原市、庄原商工会議所、備北交通、庄原DMO、J R西日本、呉工業高等専門学校などが構成員となった庄原M a a S検討会が発足し、その後、庄原地区において先進過疎地対応型M a a S検討・実証プロジェクトが行われた。</p> <p>令和2年度には中山間M a a S実証実験、令和3年度には広島型M a a S推進事業、令和4年度には庄原M a a Sステーションプロジェクト事業、5年目の本年度は先進過疎地型・共創プロジェクトなど、現在もM a a S本格導入に向けた取り組みが行われている。</p> <p>移動手段のみならず、物流や観光に至るまでを総合的に繋ぐM a a Sの取り組みは、人口減少や高齢化が深刻な本市において必要な取り組みだと考える。</p> <p>引き続きM a a S本格導入に向けて市の関わりが必要と思うが、現状と課題、今後の計画について伺う。</p>		市長	

順位	4	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 「庄原いちばんづくり」について	<p>市長は就任して以来、「庄原いちばんづくり」と称した市政方針に基づき様々な施策を実施してきたが、「いちばん」の内容は優劣を数値で表現することではなく、心の在り様としての「いちばん」を目指そうというものであると受け止めている。</p> <p>この「いちばん」を目指す市長の市政方針に議会も同意し支持してきた。市民の心の在り様として、「いちばんええよのお」と思える庄原市をつくろうという市長提案の継続のなかで、現在の市政全般を概観するとき、市長は「いちばん」を追求した結果、市政のどの分野でこの方針の成果が現れていると考えているのか伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 子どもの権利 条例について	<p>近年、日本社会において、子どもの自殺、子ども食堂の増加、不登校児童・生徒の増加、教育現場でのセクハラ事件の多発などにより、子どもを取り巻く状況は極めて憂慮する事態になっている。</p> <p>また、世界に視野を広げると、悲惨な戦争が多発しており、その被害は子どもに集中していると報道されている。</p> <p>国連は子どもの健やかな成長に世界の人々、政治家が責任を持つべきだとして平成元年11月に「子どもの権利条約」を全会一致で可決し、日本政府も平成6年4月に賛同し批准した。</p> <p>地方自治体では、この条約の精神を具体的に実践するため、「子どもの権利条例」の制定が進んでいる。</p> <p>庄原市でもこのような状況を受け止め、「子どもの権利条例」を制定する必要があると考えるが市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
3. 廃校小学校の 施設活用につ いて	<p>小学校の統合により小学校の廃校が増加している。</p> <p>廃校が確定した小学校の活用について、市は関係地域の自治振興区や自治会等に利活用の検討を促してきたが、使用見込みがないとのことである。</p> <p>廃校とした小学校施設は、直ちに崩壊するという状況ではなく、市行政として「普通財産」扱いで朽ち果てるのを傍観することにはならないのではないかと考える。</p> <p>県内でも、竹原市忠海町では、廃校処分した小学校で高齢者を対象にしたパソコン教室を中古のパソコン販売する業者と連携し、国や県の財政支援を受け、地域の住民や高校生を講師とするパソコン教室を開設し、高齢者の交流の場としても重宝されている。</p> <p>このように考えるとき、関連地域のまちづくりや加速する高齢化対策としての活用を検討することも可能ではないかと考える。</p> <p>廃校が確定した小学校の再活用を検討すべきだと考えるが、市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	4	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
4. 林業振興について	<p>庄原市の林業振興に関する事業計画は、「22世紀の庄原の森林ビジョン」、「22世紀の庄原の森林づくりプラン」「庄原市林業振興計画」などを踏まえた事業実践で成果を獲得していると思うが、平成25年（2013年）3月策定の「庄原市林業振興計画」が本年3月に計画期間を終了している。</p> <p>この計画の成果、課題等の総括をどのように考えているのか伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	前田 智永
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市の次代につなぐ輝く農業について	<p>本市では概ね10年間を見据えた農業振興に係る「第2期庄原市農業振興計画」を平成28年に策定し、令和3年に改訂している。</p> <p>計画の趣旨にあるように、本市の農業は、高齢化と後継者不足が進み、産地の生産力・競争力低下を招き、遊休農地の増加や有害鳥獣による被害、集落機能の低下などの様々な課題に不安を抱えながら経営を続けている状況である。</p> <p>目指す姿である「農業が支える定住社会の構築、次代につなぐ輝く農業」を念頭に置いた、本市の基幹産業である農業の繁栄のために、具体的な取り組みをすすめる必要があると考える。</p> <p>(1) 本市の農業における後継者不足、労働力不足に対して、具体的にどのような取り組みをされているのか伺う。</p> <p>(2) 元気あふれる「ひと」づくりの中で農業関連学校の生徒・学生やUターン・Iターン希望者、他産業からの参入など、新規就農希望者を新たな担い手候補者として育成、支援するとあるが、現状と課題を伺う。</p>		市長

順位	5	質問者	前田 智永
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 本市の次代につなぐ輝く農業について	<p>(3) 現代において、事業者にも雇用される方にも、短期間、短時間のアルバイトや休日を活用した副業のニーズが高まっている。国においても1日農業バイトのマッチングを推進しており、近隣市町でも説明会の取り組みが始められている。</p> <p>本市においてもマッチング事業に積極的に取り組むべきと考えるが、市長の見解を伺う。</p>		市長
	<p>(4) 平成26年に策定された「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」が本年9月に改訂された。</p> <p>この中で、特に市民の関心がある地域計画について、どのような事業で、市民にどのような影響があるのか伺う。</p>		

順位	6	質問者	坂本 義明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 有害鳥獣対策 について	<p>(1) 議会が実施した市民と語る会で、多くの方から、有害鳥獣被害が多いため、対策を何とかしてほしいとの声があった。</p> <p>今までの捕獲班頼みの駆除だけでなく自衛のくくり罠による積極的な捕獲対策が必要と考える。</p> <p>そこで、捕獲イノシシ及びシカ 1 頭当たり 5,000 円の自衛捕獲報奨金を増額し捕獲を推進すべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 本年度の当初予算の説明において、有害鳥獣処理施設は計画頭数を大幅に超えるイノシシの受け入れを行っており、また、近年被害が増加しつつあるシカの処理が困難であるため、施設設計の検討を行うとあった。</p> <p>シカの受け入れ態勢を整え、イノシシも含めた処理規模を拡大することで、捕獲対策も一層進むと考える。</p> <p>現在、どのような施設設計の検討をされているのか伺う。</p>		市長



順位	7	質問者	谷口 隆明		
項目		質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 市民の暮らし を守ることを 最優先に		<p>令和6年度予算編成方針では、「物価高騰の影響に対して引き続き国・県の動向を踏まえ機動的かつ弾力的に取り組む」とある。</p> <p>そのためには、まず市民の暮らし生業の実態から出発すべきだと考える。</p> <p>市民の厳しい生活実態を鑑みて、国・県の予算や財政調整基金なども活用して、本市独自の対策も積極的に行うべきではないか。</p> <p>そこで新年度予算において、具体化すべき施策として以下の4点に絞って質問する。</p> <p>(1) 庄原市の基幹産業は農林業と言われているが、「水田活用交付金の削減など、今のような農政が続けば農業は続けられない」「10年後を考えると恐ろしい」といった声が地域で聞かれる。根本的には、EUやスイスのような価格保障・所得補償など、直接支払制度の充実など希望の持てる農政への転換なしには今の困難は打開できない。</p> <p>広島県の12月補正予算でも、新規の和牛繁殖農家支援策など多くの事業が具体化されているが、こうした国・県の支援策を機敏に予算化するとともに、関係者の声を聞いて市独自の農家に届く支援策を行うべきと考えるが見解を伺う。</p>		市長 教育長	

順位	7	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 市民の暮らし を守ることを 最優先に	<p>(2) 実質賃金が減るといふ異常事態の中で子育て世代の支援も強く求められている。学校給食費の無償化もしくは半額支援に取り組む考えはないか。</p>		市長 教育長
	<p>(3) 国保の子どもの均等割りの廃止に取り組む考えはないか。</p>		
	<p>(4) ガソリンや灯油価格の高騰が続く中、高齢者家庭や生活困窮者への福祉灯油の支給を実施すべきではないか。</p>		

順位	7	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
2. 地方ローカル線の存在意義を高く掲げて	<p>J R 芸備線の備後庄原駅から備中神代駅間について、再構築協議会が設置されることになるが、利用しやすいダイヤの編成はもとより、芸備線と言いながら備後落合で分断される運行管理ではなく、乗り換えなしに列車が走ることをまず求めるべきだと考える。</p> <p>市民の中には様々な意見があるが、鉄道は国が責任をもつ公益事業だとの立場から、以下の質問を行う。</p> <p>(1) 地域公共交通活性化法によって、鉄道事業者からも協議会の設置の要請ができるようになり、J R 救済法にもなりうる上、国の責任を明確にしていない。</p> <p>1987 年に国鉄を分割・民営化した際に掲げた原則は、J R 各社が都市部の路線や新幹線、関連事業の収益で不採算部門を含めた鉄道網を維持することだった。湯崎広島県知事も言っているように、協議の前提は、本来、分割・民営化の総括と見直しである。</p> <p>国の責任を明確にせずに、自治体と事業者で協議せよ、というのは問題だと考えるが見解を伺う。</p>			市長

順位	7	質問者	谷口 隆明		
項目		質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 地方ローカル線の存在意義を高く掲げて		<p>(2) 単位輸送量あたりのCO2排出量は鉄道が圧倒的に優れており、鉄道から自動車・トラックへの転換は、気候危機の打開、脱炭素社会の実現に逆行している。</p> <p>運転手不足が言われる中、コンテナ輸送も含めた鉄道の利便性を再認識すべきと考えるが見解を伺う。</p>		市長	
		<p>(3) ローカル線の危機は、国の道路偏重の交通インフラへの投資と鉄道の独立採算制との考え方の定着、さらにJRの「経営努力」という名の減便・減車、優等列車の削減・廃止、駅の無人化等の経費削減、投資の抑制という「負のスパイラル」が原因である。</p> <p>解決策として、上下分離方式は良い方法だが、「下」は、財政基盤の弱い自治体ではなく、ヨーロッパのように国が責任をもつ方向をめざすべきと考えるが見解を伺う。</p>			

順位	7	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
<p>3. 医療法人社団 光仁会の撤退 と新法人の設 立について</p>	<p>医療法人社団光仁会は介護老人保健施設こぶしの里及びこぶしの里クリニックを運営しているが、本年10月に医療施設については令和6年1月末を目途に、介護老人保健施設は令和6年3月末を目途に経営から撤退することを明らかにされた。</p> <p>合併前の旧東城町において、高齢化が進む中で、「総合病院」の設立を願う町民の声に応じて、医師会の猛反対を押し切って、行政主導で誘致した施設である。</p> <p>そうしたことから、撤退の経過や、新法人に引き継ぐとされている今後の運営について、市として市民に説明する必要があると考えるが見解を伺う。</p>		<p>市長</p>

順位	8	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 道の駅等の観光施設のあり方について	<p>(1) 本市にある築30年を経過した道の駅等の観光施設は、老朽化による施設更新の必要性や現代のニーズに沿わない実態があると認識をしている。</p> <p>これらの施設について今後どのように考えているのか市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 道の駅は、「通過する道路利用者のサービス提供の場」を第1ステージとして1993年から全国に整備され、2013年には第2ステージとして「道の駅自体が目的地」、そして現在は第3ステージとして「地方創生・観光を加速する拠点へ+ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献」という新たな整備が求められている。</p> <p>具体的には、熊本県荒尾市で令和8年開業に向け整備をされている「荒尾市ウェルネス拠点施設（仮称）」の計画から実施までの過程は、本市の今後の道の駅の在り方を検討する際にも参考とすべきと感じている。</p> <p>本市の道の駅の更新整備について、どのように考えているのか市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	8	質問者	政野 太
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. スポーツによるまちづくりについて	<p>スポーツによるまちづくりは、市民の健康増進、交流人口の拡大、観光振興など本市の課題の解決につながり、競技振興と地域振興の好循環をもたらすと認識している。</p> <p>第2期長期総合計画の実施計画において、令和6年度から予定されている「スポーツ合宿推進事業」の施設整備の調査・検討について、現段階ではどのように考えているのか市長の見解を伺う。</p>		市長

順位	9	質問者	吉川 遂也
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 鳥獣被害対策 について	<p>今年度も市民と語る会や、各種行事等に参加する度に、イノシシ被害やシカを頻繁にみるようになったこと、田んぼや水路、畑をやられて来年度作付けをする気力がもう無くなったなど、鳥獣被害に関する話題が必ず上がった。体感的にもここ数年でイノシシ等の数も被害も増えているように感じる。</p> <p>また、シカやサル、クマなど、これまではあまり生息していなかった場所にまで確実に生息域が広がっているようにも感じられる。鳥獣被害により、耕作できなくなり、人の手が入らなくなった土地が更に害獣の生息域になるという悪循環が現実化している状況で、今後の対策につながる取り組みについて伺う。</p> <p>(1) 今年度のイノシシの駆除数と庄原市有害鳥獣処理施設に搬入された頭数及び食肉処理された頭数について、前年度比を含めた増減や今後の見通しを伺う。</p> <p>(2) 庄原市鳥獣被害防止計画では、平成 30 年に策定された当初、課題として捕獲班員の高齢化に伴う減少と担い手の育成を挙げられているが、狩猟免許取得助成事業の近年の実績と捕獲班員の現状と課題について伺う。</p>		市長



順位	9	質問者	吉川 遂也
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 鳥獣被害対策 について	<p>(3) 令和5年度施政方針の中で、市長は「農作物に多大な被害を及ぼしている有害鳥獣対策につきましては、農家の皆さんの自衛の取り組みに対する支援を継続するとともに、捕獲実施体制の維持・強化に努め、増加するイノシシ等の捕獲頭数に対応した、有害鳥獣処理施設の機能向上への検討を進めてまいります。」と述べられた。</p> <p>自衛捕獲を含め、わな等で捕獲する人員の拡充と、農家等の負担軽減が害獣を減らす今後のポイントになると考える。</p> <p>捕獲班が旧市町を境として活動できない等の現状を考えると、機動的に全市で活動できる班を別途設置することが肝要と考えるが、市長の見解を伺う。</p>		市長
	<p>(4) 有害鳥獣処理施設について、イノシシの処理頭数及び、シカの捕獲が増えていくことが容易に想像できる今後は踏まえ、どのような機能向上を検討しておられるか伺う。</p>		

順位	9	質問者	吉川 遂也
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 水田活用直接 支払交付金の 厳格化に伴う 本市農業への 影響について	<p>(1) 令和4年度から、国は水田活用直接支払交付金事業を厳格運用する方針を示し、本市議会では令和4年6月議会で見直しに対する意見書を議決した。</p> <p>来年度の作付けの検討を始める時期になり、農業従事者は、生産コストの上昇の中、今後の見通しや生産計画に大きな影響を与える当該事業の厳格運用に危機感を持っている。</p> <p>特に、5年に1回の水張要件が本市の農業にどのような影響があると考えておられるか、また、要件を踏まえ水張を既に行った水田があるのか伺う。</p> <p>(2) 国は今後もますます畑地化の促進に重点を置くものと考えられる。</p> <p>本市においても農業従事者から畑地化についての相談や、制度の説明など情報提供を求められている事案があるのか伺う。</p>		市長

順位	10	質問者	五島 誠	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 本市の働き方改革について	<p>(1) 本市における働き方改革の取り組みについて現状と課題を伺う。市職員の離職者が多いと感じているが、特に職員の満足度について、職員の方がいきいきと働ける職場となっているのか見解を伺う。</p> <p>(2) 市役所内の業務における情報化、デジタル化の進捗、課題、今後の展望について見解を伺う。</p> <p>(3) 市役所のみならず本市全体としての働き方改革について、市は把握が出来ているのか。また、どこまで関与していけるのか見解を伺う。</p>		市長	
2. 少子化対策の推進について	<p>国は少子化対策として、男性の婚姻率が年収の増加に伴い上昇する傾向にあるなどとして、若年世代の所得向上を図るべきとしている。</p> <p>本市においても本市の特性を生かした、民間主導の安定した雇用や賃上げを作り出し、或いは起業や副業の促進等、多様な働き方が可能な環境を整える等により、若年世代の所得向上や働き方改革を進めるべきと考える。</p> <p>若年世代の所得向上に向けて、市としての対策をどのように考えているのか見解を伺う。</p>		市長	

順位	10	質問者	五島 誠	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
3. いざなみカードの効果、展望について	<p>キャッシュレス決済事業に係る予算説明において「市内の加盟店で利用できるキャッシュレス決済対応のポイントカードを使用することで、市内での消費を拡大させ、地域経済循環を促進する」とあった。</p> <p>来年3月でサービス開始から丸3年が経過しようとしているが、いざなみカードの利用額や市内消費の状況など事業を促進する中で見えてきた課題について伺う。</p> <p>また、今後さらに使っていただくために加盟店を増やす、キャンペーンなどによる利用促進などに取り組むべきと考えるが、市としての今後の展望について見解を伺う。</p>		市長	

順位	11	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 景気対策は、 即効性のある 施策をすべき	<p>先日、夜に庄原市内のある飲食店に入ってみるとカウンターには他のお客さんが見当たらず、寂しい状態だった。</p> <p>最近の景気動向をお聞きしたら、タクシーがないため、飲酒を伴うお客さんは激減しているそうであった。</p> <p>あるタクシー会社に聞き取りをしたところ、運転手不足で、深夜、日曜日、祝日は予約も受けないとのことだった。</p> <p>このままでは、市内での忘年会も少なく景気の回復が進まないと感じた。</p> <p>こうした中、11月29日、国会で13.1兆円の補正予算が成立した。効果のある景気対策は、一点集中にしなければ効果が現れない。</p> <p>運転手不足を解消する対策として、2種免許保持者にタクシーを臨時運転してもらう人材確保支援により、飲食店の賑わいや催事の開催に繋がり、延いては経済活動が活発となる。</p> <p>こうした即効性のある景気対策を行うべきと考えるが、今後の経済対策について伺う。</p>		市長

順位	11	質問者	赤木 忠徳
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 芸備線再構築協議会に参加表明した庄原市の主張は	<p>(1) 芸備線再構築協議会に参加を表明されたが、国に対して、地震など災害発生時の鉄道の活用や責任を問うべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 芸備線は新見市から姫路市までの姫新線に繋がっている。鉄道路線は繋がっているからこそ本領を発揮する。芸備線には陰陽だけではなく、姫路市までも繋がる広域なネットワークであることを生かした有効な活用策があると考えます。</p> <p>市として、芸備線の有効な活用方法をお考えなのか伺う。</p>		市長

順位	12	質問者	藤木 百合子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 高齢者が住みやすい市営住宅の整備について	<p>高齢化が進み、僻地での一人暮らしに不安をかかえる方が増加している。</p> <p>自宅に住めないほど老朽化しているケースもある中で、高齢者向け優良賃貸住宅（8戸）は、すでに100%の入居となっている。</p> <p>庄原地域の中心部にある老朽化した市営住宅を「用途廃止する」というこれまでの計画を見直し、高齢者の方が、安心、安全で安く、住みやすい市営住宅を整備する必要があると考えるがどうか。</p>		市長

順位	12	質問者	藤木 百合子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 介護保険料、 利用料の負担 軽減について	<p>来年度の介護保険制度改定に向け、国の審議会が、利用料の2割負担の対象者拡大、介護老人保健施設などの相部屋（多床室）の有料化、ケアマネジメントへの利用者負担の導入、要介護1・2の人への訪問介護・通所介護の保険給付外しと市町村の事業への移行などを決めようとしている。</p> <p>2015年に利用料の2割負担が導入された時、利用控えがあり家族の介護負担が増えたといわれている。コロナ禍や物価高騰で保険料や利用料の負担増に耐えられない状況となっている。</p> <p>介護保険財政への国庫負担を現在の25%程度から増やすよう求め、県にも財政支援の拡充を要望すると共に、当市の介護給付費準備基金約4億円の活用などで介護保険料、利用料の負担軽減が図れないか見解を求める。</p>		市長